

Shin

2021.11

vol. **21**

特集

障害がある人もない人も、 共に活躍できる社会へ

CSR 認定企業紹介

兵庫 **ソーエイ**

独自の環境改善活動で社員の自主性を育て
CSR で「地域貢献」「社会貢献」を実現

愛知 **荒川印刷**

CSR と SDGs を連携させた取り組みで
持続可能な社会への実現を目指す

CSR トピックス

愛知県印工組、休眠預金等活用法を利用したインターンシップ生を受け入れ

凸版印刷など3社、自治体のSDGs達成度を可視化する手法を共同開発

改正地球温暖化対策推進法が成立

東京都、女性管理職の割合を25年に25%へ

大阪・関西万博に向け印刷業界も関わりを検討

埼玉県印工組、障がい者アートの広がりを支援

大栗紙工の発達障がい者向けノートの取扱店が拡大

勇気ある経営大賞、介護サービス進出の出版社が受賞

全清飲、異物混入を減らす飲料リサイクルを促進

セイコーなど4社、音声案内する点字ブロックの実用化へ

株式会社ソーエイ

本社：兵庫県明石市榎屋町6-6 創業：昭和15年 従業員：25名
代表者：齊藤雅彦 認定取得：2020年10月（ワンスター） <http://www.so-eip.co.jp>

独自の環境改善活動で社員の自主性を育て

CSRで「地域貢献」「社会貢献」を実現

——ソーエイの業務内容をお聞かせください。

齊藤雅彦取締役会長 創業から約80年になる弊社は、チラシ、ポスター、パンフレット、冊子、各種封筒、伝票などの一般印刷物をはじめ、販促用及び特殊印刷といったあらゆる印刷物を、自社一貫で、企画・デザイン制作から印刷、製本、発送までワンストップサービスで行っています。

取引先は、学校、病院、官公庁、企業、各種団体、個人様と幅広く、地元明石で印刷を通してお役立ちができています。

「お客様のベストパートナーでありたい」ということを企業理念として掲げています。

また2007年にCO₂排出ゼロ、消費電力



ゼロの「CTP専用ストッカー装置」を自社開発し、これまで全国の印刷関連企業様に約200台の納品実績がございます。さらに環境に配慮した「現像レスプレート対応CTPストッカー」も新たに開発し販売しています。

——すべての工程を自社で行うことで、お客様に提供できていることはなんでしょうか。

寺田晃専務取締役 印刷物は品質・価格はもちろんですが、納期厳守をかなり求められます。そうした中でお客様からの急な要望や変更にも柔軟に対応できること、それが弊社の強みです。社員には常に、お客様に対して痒いところにまで手が届く、お客様のニーズに最大限応えるという意識を持って仕事に取り組むことを意識づけし伝えていきます。

——突発的なお客様からの要望にも応えられるのはどうしてですか。

齊藤 弊社は、単色印刷機から8色LED-UV印刷機まで7台の印刷機をはじめ、各種製版・製本機といった設備を幅広く備えておりますので、お客様のあらゆる要望にお応えすることができます。そして何よりも、一人の社員が複数の機械を扱えるように多能工化を取り入れていきます。ですから、誰かが休んでも、代わりに対応

できる社員がいますので、印刷業務が滞ることはありません。

寺田 お客様様からすると、こちらの都合は関係ないんですね。

——



オフセットNON-VOC
パウダーレスLED-UV8色印刷機

先にも少し触れましたが、肝心なこととは、顧客のニーズに対応できるかできないか、で終わるのではなく、できるためにどうするか！とただ顧客に寄り添った意識を持って事になるのか！ということなんです。

——CSRのワンスター認定を取得されたのは昨年の2020年ですね。取得されたのはなぜですか。

齊藤 CSRの8項目の取り組み内容が、弊社の企業理念と一致したからです。「顧客満足度地域ナンバーワン」の印刷メディア企業を目指していますが、CSR活動に取り組むことが、地域貢献や社会貢献に繋がり、その結果お客様から必要とされる企業になると考えました。弊社では環境改善活動に18年前から積極的に取り組んできましたが、社会から求め続けられる企業になるには、環境問題だけでなく、他にもまだまだやらなければならないことがあります。それ

地域の皆さまから選ばれ愛される企業として成長していきたいと語る齊藤会長



を実践していくために、CSR活動は絶対に必要だと思いました。

——環境改善活動の具体的な取り組みを教えてください。

齊藤 2003年に「ISO14001認証」を取得しました。環境問題を扱った映画「不都合な真実」を観て、弊社でも環境問題に取り組みなければならぬと思ったのが、取得のきっかけです。印刷業は、騒音の問題、振動の問題、汚水の問題、紙ごみの問題と、事業を行う中で実に様々な問題が出てきます。3R（リユース、リデュース、リサイクル）に全社で取り組むと決めた際、ISOを取得したほうがルール化できるので、社員に徹底できると考えました。

寺田 具体的には、「ISO委員会」を立ち上げ、課長が中心になって環境へのリスク低減に対する具体的な目標、解決方法を話し合い、実際に活動した内容と結果を全課で報告、確認しあうことを始めました。例えば、本刷りの印刷に入る前の色合わせ、位置合わせに使う紙を何%減らすとか、環境に適応した資材を使う、消費電力をできるだけ抑えるなど、日々の業務の中でできることです。しかし、正直申しまして、会社と社員の意識には大きなずれがあったと思います。例えば、私が、エアコンの温度をわずかに1度調整することで、どれだ

けの消費電力が抑えられるかを伝え、この室温（体感温度）では暑くて仕事にならない」という不満が社員からあがってきました。それでも取り組みなければならぬことだと話すのですが、理解してもらおうのは容易ではありませんでした。

——6年後にISO認証を返上し、同年、新たに日本印刷産業連合会が推進する「グリーンプリンティング（以下GP）認定」を取得されましたが、社員の意識改革は進みましたか。

齊藤 「限りある天然資源を利用することで、弊社の業務は成り立っている」ということを改めて社員に伝える、GP認定に沿って業務を展開することは会社の方針であり、仕事を行う上でのルールであると説きました。社員は、ルールに則って業務を進めていくことになり、そこから社員に自主性が生まれることを期待しました。

寺田 「ISO14001認証」を取得して環境改善に取り組んでいる時の社員は、取り組む範囲が広すぎて、



展示会で環境に配慮した取り組みをPRする齊藤会長

何か漠然とした感覚をもっていたと思います。それでも取り組みは続けていきました。それに対し、GP認定を得たことで大きく変わったことは、GP活動は印刷に特化した認証制度なので、理解しやすく、社員は自分の業務の中で、具体的にどの様なことに取り組みれば環境への負荷低減になるのかを考えた上で、目標を立てることができ、結果にも結び付けやすくなりました。そういう意味で、GP認定は弊社にとつて相応しい認定制度であつたと言えます。

——具体的にはどの様なことに取り組まれているのでしょうか。

寺田 GP認定取得当初は、私がリードして動いていましたが、今は社員が「グリーンプリンティング推進委員会」を運営し、3か月に1回各課から代表が集まり、課ごとの課題への取り組みと結果報告を行っています。

環境負荷削減のために何をやるかは、課ごとに決めていきます。例えば、事務担当は、FSC森林認証紙のひと月ごとの使用率を把握すること、製本課は、包装用紙リユースを推進することなどです。委員も交代制を敷いており、社員には何か難しいことをしているというよりは、こうすることが当たり前という意識づけを、行っています。

齊藤 包装紙のリユースでは、紙業者から届く全紙を包装して捨てるのではなく、主に、全紙からカットし



グリーンプリンティング推進委員会の風景

た紙を再包装するものにしたたり、良い部分のみをカットして、商品に包装する用途としても再利用したりしています。目の前にあるものをゴミにするのか、資源にするのか。再利用することでコストダウンや利益に結び付けられると気づけば、行動は大きく変わります。

一人の社員や課から出てきた改善提案を、全社共通の取り組みとして定着させなくては、会社は成長しません。そのためには、社員が、改善提案は自分たちがやるという意識を持つて実践していかなければならないのです。

——CSR認定からちょうど1年というところですが、社内にCSR活動は浸透していますか。

寺田 環境改善への取り組みは概ね習慣化できてきましたが、CSR活動を社内に浸透させていくのは、正直これからです。CSRに取り組みの軸は、活動が結果的に社会貢献に繋がること、顧客満足に繋がること

の2つです。それと同時に、経営者と社員が喜びも楽しみも、悲しみも辛さも共有できる会社にするのを、CSRに取り組むことを通して実現したいと願っています。

——コロナ禍において、マスクケースを学校や歯科医師会などに寄贈されていますね。

齊藤 コロナ禍で仕事の受注が減ったのですが、その時、制作課の社員から会社の役に立つことはないかと出てきた案が「抗菌マスクケース」でした。商品名は「マスクのおうちマスクんち」。毎月、給食の献立表を納めている明石市内の小学校に2万枚寄贈し、その他にも、明石市の歯科医師会やロータリークラブをはじめ、各種団体様にも寄贈しました。

寺田 制作課の社員は、コロナ禍の中にあって、印刷会社である私たちにできることはないか、かつ、仕事の受注に繋げることはできないかと会議を開いて案を持ち寄り、「マスクケース」を制作してくれました。社員たちが自発的に案を出し合い、カタチにしてくれたことは本当に嬉しかったですね。もともとは、販売目的ではなく、「どうぞお使いください」というスタンスでしたが、その後、何件かマスクケースの注文があり、少なからず利益を生むことにも繋がりました。何よりも「ソーエイさん

ありがとう」や「助かります」という感謝の言葉や賞賛をいただいたことは、誠に嬉しいことでありました。



社員が自主的に制作した抗菌マスクケースを寄贈

——他にも社員の皆さんの行動で嬉しかったことはありますか。

寺田 コロナ禍がきっかけということもありましたが、それまで、時間内にこなせる仕事であったにも関わらず、残業をしていたのが、余計な残業をしなくなったことです。社員一人ひとりが、限られた時間と環境の中で最大の仕事をできるにはどうしたらよいかといった、原価意識と時間観念を意識しながらメリハリをもつて行動できるようになってきました。（そうなっていると信じています…）

——社内に「印刷ギャラリー」があります。お客様の会社工場見学の目的は様々ですか。

齊藤 「印刷ギャラリー」では、印刷の仕組みや物品をわかりやすく紹介、展示しています。また、弊社は自社で一貫生産しているのので、印刷の全工程を見せられます。地元の小中学

生の皆さんが社会勉強で来てくれますし、「自分がデザインしたものが、その後の様な工程を経て形になるのかを知りたいから来ました」というお客様もいました。他にも、取引先である企業様には、インターンシップの場として、新しく入社する学生さんに、実際どういうお客様と関わっているのかを知ってもらいたいということ、弊社をその見学先に選んでいただいたことは、とても嬉しいことでした。

——最後に今後の展望をお聞かせください。

寺田 先ほども述べましたが、喜びも辛いことも経営者と社員が共有できる会社。そして社員が「ソーエイで働けて良かった！」と思える会社にしたいです。

その鍵を握るのは管理職です。どれだけ自分の部下のハード面とソフト面共に、目を行き届かせられるか、そして、どれだけ経営感覚を持つリーダーシップを発揮して

個々のスキルのみならず、チーム力を高めるかが問わ



CSR活動は強い会社をつくるための足掛かりとなると語る寺田専務

れます。私はそこができる会社こそが本当に強い会社だと思っています。そういう側面においても、CSR活動は、強い会社をつくるための足掛かりになると思っています。そして、私としましては、「変えるべきものを変える勇氣と、変えてはならないものを変えない冷静さ、それらを識別する知恵」を絶えずもつて、経営に携わっていきたくと願っています。

齊藤 CSRというと何か難しいことと捉えてしまいがちですが、関西人であれば、近江商人の「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」を商売の基本としてきました。これはソーエイの社名にも言えることで、創業当時の社名は「双栄印刷」であったのですが、その屋号は、売り手と買い手双方が栄えるという想いを表していました。こうした経緯からも、これから「会社、社員の利益追求だけにとどまらず社会貢献をする」という企業理念に基づいた経営を続けながら、さらに「三方よし」を進化させて、「作り手よし」「地球よし」「未来よし」を加えた「六方よし」の精神で、地域の皆さまから選ばれ、愛される企業としてさらに成長していきたいと願い、そのことが、今、弊社も賛同している、「SDGs」持続可能な目標の達成にもつながっていくと思っています。